



〈川越城築城550年記念〉

平成18年度

研究集録

—川越市教育委員会委嘱学校研究—



川越市教育委員会

目 次

| (学校名) | (研究主題) | (ページ) |
|--------------|--|-------|
| 【2年次】 | | |
| 名細小学校 | 一人一人の教育的ニーズに応じた学習内容と指導法の工夫 ～特殊学級における指導法の研究及び通常の学級における 特に配慮を要する児童への適切な支援・指導の在り方の研究～ | 1 |
| 古谷小学校 | 生き生きと自ら取り組む児童の育成 ～算数の授業を心まちにしている児童の育成～ | 5 |
| 古谷東小学校 | 未来を手にする生きる力と自立心を身につけた児童の育成 ～確かな学力を伸ばす学習指導法の工夫改善を中心に～ | 9 |
| 高階小学校 | 「わかる喜び」「できる喜び」を味わわせる学習指導法の工夫改善 ～算数科を核とした確かな学びの定着を目指して～ | 13 |
| 【1年次】 | | |
| 川越第一小学校 | 個性を伸ばし、創造性を育む学習指導の充実 ～考えや思いを進んで伝え合う力を育む国語科指導法の工夫・改善～ | 17 |
| 泉小学校 | 一人一人の学びを大切にする算数科・国語科指導 | 21 |
| 南古谷小学校 | 子どもたち一人一人に「生きる力」を育む教育の推進 ～「教育に関する3つの達成目標」の実践を通して～ | 25 |
| 霞ヶ関北小学校 | 豊かな学びを育む授業の創造 ～指導方法の工夫・改善を目指して～ | 29 |
| 川越第一中学校 | 実践的コミュニケーション能力育成のための基礎・基本の定着 | 33 |

あいさつ

川越市教育委員会教育長 山浦秀男

文部科学省は平成18年1月に「教育改革のための重点行動計画」を取りまとめ、「国際社会の中で活躍できる心豊かでたくましい人づくり」に向けて、どの子どもにも豊かな教育の実現を目指し、教育改革を進めています。

本市におきましても、教育行政の基本方針である「次代を担いたくましく生きる児童生徒の育成」に向け、これまで以上に教育活動の充実に取り組んでまいりました。各学校におかれましては、教育活動全体を通して、基礎的な知識・技能を徹底して身に付けさせ、それを活用しながら自ら学び自ら考える力などの「確かな学力」を育成し、「生きる力」をはぐくむことに全力で取り組んでいるところと存じます。

この度、平成18年度川越市教育委員会委嘱の学校研究が、大きな成果を上げ、ここに「研究集録」として刊行されることになりました。それぞれの研究主題に沿い、学校を挙げて真摯に研究に取り組まれた姿勢に対し、心から敬意を表すものであります。

本年度、各研究委嘱校では、各教科や特別支援教育について研究を推進されました。特に、2年間の研究に取り組んでこられた4校につきましては、各学校の特色を生かした実践の成果について発表をされ、生きる力の育成に向け、多くの示唆を与えていただきました。いずれの学校におかれましても、先生方が教育の専門家としての力量をさらに高め、生き生きと活気あふれる学校づくりを推進していただいております。

市内各校におかれましては、ここに紹介された学校研究の成果を、平成19年度の指導計画の見直しや指導方法の工夫改善に積極的に生かすことを期待しております。

結びに、委嘱研究の御指導にあたられた関係各位の御尽力と御厚意に対し、改めてお礼申し上げ、あいさつといたします。

研究主題

「一人一人の教育的ニーズに応じた学習内容と指導法の工夫」

—特殊学級における指導法の研究及び通常の学級における特に
配慮を要する児童への適切な支援・指導の在り方の研究—

川越市立名細小学校

研究のポイント

- 特殊学級における指導方法等を研究し、その成果を通常の学級の指導に生かす
 - ・ 授業研究会の実施
 - ・ 担任間の授業交流（T Tによる指導体験）
- 通常の学級における特に配慮・支援を要する児童を的確に把握し、適切な支援の在り方の研究
 - ・ 児童の実態の把握方法についての共通理解
 - ・ 個々の指導や支援についての共通理解
- 校内の教育環境の整備
 - ・ 目に見える約束ごと
- 支援体制の確立（支援地図）



（題材学習・体育授業風景）

1 研究の概要

（1）研究のねらい

- ① 特別な配慮・支援を必要としている児童に対して、実態を的確に把握しその個性を理解し、適切な支援・指導を計画立案する。
- ② 特殊学級及び通常の学級で特別な配慮・支援を必要としている児童の指導方法を研究し、個に応じた学習参加の在り方を開発する。
- ③ 個々の児童の教育的ニーズに応じた教育環境を整え、校内支援体制を充実し、より適切な支援を図る。

（2）研究主題設定理由

本校の特殊学級では、校内協力体制のもと、個別の指導計画に基づき、個に応じたきめ細かな指導を行っているところである。今後は更に個別の支援計画の作成と共に、障害の多様化に伴う一人一人の教育的ニーズに応じた教育的な支援が重要となってきた。

16年度実施された「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」によると、知的に遅れはないが学習面・行動面において特別な教育的支援を必要とする児童も見られた。その際、児童への支援の在り方が担任の裁量によるところが大きく、対応がまちまちであったり、年度をまたいでの継続的な支援が十分とはいえなかったりする状況もあった。これからは、通常の学級においても、特別支援教育の観点から、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を必要としている児童に対する指導の在り方の共通理解が重要となってくるのではないかという視座を得た。

そこで、今までの本校における特殊教育で積み上げてきた教育的支援の実践及び川越

市の特別支援教育における実践に学び、教職員一人一人が、特別な配慮・支援を必要としている児童に対して、その実態を的確に把握し、個性を理解すると共に適切な支援・指導の在り方を研究し、併せて教育環境・校内支援体制を整備・充実することにより、児童一人一人の教育的ニーズに応じた支援が可能となり指導がより充実していくものと考え本主題を設定した。

①教育目標から

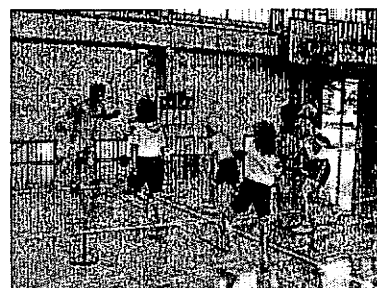
本校では、「豊かな心を持ち自分で考え行動する子」の育成のため学校教育目標を、
 ・なかよく ・かしこく ・たくましく とし、「一人一人がかがやく学校」を目指している。

②児童の実態から、学校全体として

- ・ 特殊学級の児童に対しては、温かい雰囲気で接している。
- ・ 縦割り活動を通して、高学年が低学年の面倒をよく見ている。
- ・ 特殊学級との交流があるので、障害のある子に対して理解がある児童が多い。
- ・ クラスの中の配慮を要する児童に対して、厳しく接してしまうことがある。
- ・ 配慮を要する児童に対してのかかわり方がわからない児童がいる。
- ・ クラス替え（新年度）の後のスタートが肝心。

[課題]

- ・ 配慮を要する児童自ら自然に入っていけるようなかかわり方。
- ・ 配慮を要する児童をみんなで引っ張り入れるような雰囲気。
- ・ 生活・学習面等担任のかかわり方、支援の仕方。
- ・ 配慮を要する児童の個別の指導計画の作り方。
- ・ 相手を尊重しようとする態度の育成。
- ・ 自分で判断して行動できる子。

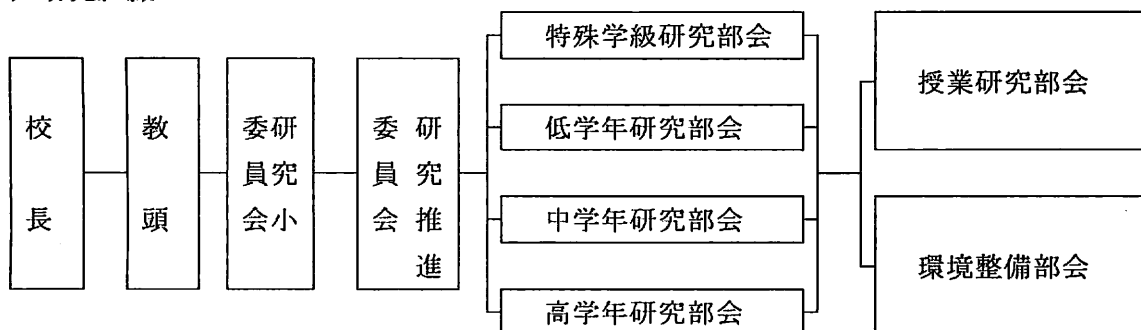


③教師の願いから

- ・ 生き生きとした生活を送れる学校。
- ・ 優しい言葉や態度で接することのできる教師。
- ・ 行動のもととなっている心情の理解できる教師。

(題材学習・「体育」授業風景)

(3) 研究組織



2 研究の内容

- (1) 児童の実態把握。
- (2) 個別の支援計画・指導計画の立案。
- (3) 学習指導案の工夫。
- (4) 教材・教具の開発。
- (5) 教育環境の整備。
- (6) 地域・他機関との連携。
- (7) 研究授業。
- (8) 指導法の研修。

3 実践事例（特殊学級5・6・7組 題材学習「体育」・本時の学習指導）

(1) 研究主題との関わり

本校の研究主題「一人一人の教育的ニーズに応じた学習内容と指導法の工夫」を具現化するために、次のような手だてを考えた。

- ・みんなができる「動物真似歩き」をその児童に合った方法で継続的にすることで、準備運動を兼ねた体力向上を図った。
- ・ゲームをする中で、一人一人にあったルール等の工夫をした。
- ・投力に応じて、ボールの扱いに慣れることを含めて、グループ編成し、投力やコントロールが付くよう工夫した。

(2) 題材の目標

- ・ゲームを通して、運動することやみんなと力を合わせることの楽しさを味わう。
- ・ボールや相手から、逃げたり追いかけたりする事で、機敏な動きを身に付けることができるとともに、ボールの扱いに慣れることもできる。

(3) 展開

(・は個々の活動。○は支援。)

| 学習内容 | 個々の活動と支援 | 時間 |
|----------------|---|----|
| 1 集合し整列する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・チーム毎に集合する。(かぼちゃ、ピカチュウの2チーム) ・挨拶・健康観察をし、本時の流れを確認する。 ○リーダーとして、大きな声ではっきりみんなに話ができるように支援する。：L-T1, N-T3。 | 5 |
| 2 準備運動をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・動物真似歩きをする。 ・手の指を伸ばして、足も使ってゆっくり前に進む(ワニ)。 ・できるだけ手足を伸ばし、顔を上げ、ゆっくり歩く(馬)。 ・手を耳の側まで挙げさせて、両足跳びをする(うさぎ)。 ・手を後ろに組み、膝を曲げてゆっくり歩く(あひる)。 ○きちんと歩いた児童を誉めたり、よくできない児童を励ましたりする。 ○自分の力に合わせることをA-T2, H-T6が支援する。 あわてず、ゆっくりすることをB-T5, F-T4が支援する。 | 5 |
| 3 しっぽ取りゲームをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・チーム毎に分かれて、しっぽをリーダーが配り、ルール通りズボンの後ろに付ける。 ・かぼちゃチーム：B, E, F, H, K, L, M ピカチュウチーム：A, C, D, G, I, J, N ・リーダーを中心に今日のめあてを話し合う。・審判マン登場。(T3) ・しっぽは、もう1本付けられることを確認し合う。・ゲームをする。 ○かぼちゃチーム --- T1, T4, T5 ピカチュウチーム --- T2, T6 に教師も分かれる。 ・今日のめあてを確認し合う。 ・結果を確認し、めあてに従って励まし合う。 | 10 |
| 4 的当て遊びをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・3グループに分かれて、その児童に合った遊びをする。 Aグループ：投力5m未満の児童(以下コントロールも考慮して) | 20 |

| | | |
|--------------------|---|--------|
| | <p>A、D、F、G、H、I。パスや大きな円を当てる。利き手に他の手を添えて肩の上から投げる。</p> <p>Bグループ：投力10m未満の児童。C、E、M、N。籠に入れよう。 片手でしっかりと投げる。</p> <p>Cグループ：投力10m以上の児童。B、J、K、L。得点板やパス。 ・がんばりカード等を通して、がんばりを認め合う。</p> <p>○Aグループの児童を中心に、投げ方等を支援する。 A：T2、T5、T6 B：T3、T4 C：T1が指導する。</p> | |
| 5 ミニ・ドッジボールゲームをする。 | <p>・的当て遊びの3グループに分かれて、ミニ・ドッジボールをする。</p> <p>Aグループ：バスケットボールのサークルをコートにして中当て。 Bグループ：「たぬきをやっつけろ」ゲームをする。 Cグループ：10m位のコートで中当てをする。</p> <p>○的当て遊びと同じ指導分担で、担当の児童・チームを支援する。 ・かぼちゃ：ピカチュウチームで2面ドッジボールゲームをする。 ・チーム毎に分かれて、外野を決める。</p> | |
| 6 ドッジボールゲームをする。 | <p>・向かい合って整列し、あいさつをする。 ・センタージャンプをして、ゲームを始める。</p> <p>○A-T2, H-T6, L-T1, N-T3, I-T5を中心に支援する。 ○支援が必要な児童もゲームに参加できるように工夫したい。 ・結果を確認する。反省をし、頑張った子を認め合う。 ・向かい合ってあいさつをする。</p> <p>○本時の児童の実態に応じて、ミニ・ドッジボールゲームをゆっくりに展開することもある。</p> | |
| 7 整理運動をする。 | <p>・膝の屈伸、深呼吸等でゆっくり、体をほぐす。</p> | |
| 8 挨拶をし、後片づけをする。 | <p>・担当班のリーダーが中心になってあいさつをする。 ・けが等の確認をし、担当班が中心になって後片づけをする。</p> <p>○後片づけを支援する。</p> | 2 3 |

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・研究授業を通して、特に配慮が必要な児童についての理解が深まった。
- ・教材研究を充実することができた。
- ・配慮を要する児童に対して、意識的に接するようになった。
- ・児童の個性に応じた配慮の仕方について学ぶことができた。
- ・該当児童への配慮によって、落ち着き集中して学習に取り組むことができるようになった。
- ・他の児童との人間関係も良好になり、学級での居場所を確保できるようになった。

(2) 課題

- ・授業研究を進めながら、更に理論的な面の研修をもっと深めていきたい。
- ・特殊学級と通常の学級の担任間相互の交流を一層充実していきたい。
- ・交流学习における担任間の共通理解を深めていくための時間確保の工夫。

「生き生きと自ら取り組む児童の育成」

－算数の授業を心待ちにしている児童の育成－

川越市立古谷小学校

- 系統性を重視して、学習内容の基礎・基本の定着
- 少人数指導を通して、個に応じた補充的、発展的な指導の徹底
(コース別学習、T・T指導の研究)
- 問題解決に主体的に取り組む指導方法や指導体制、評価の研究
- 生き生きと学び合う児童の育成

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

- ① 算数の単元の系統性を教師が把握し、基礎・基本を踏まえた授業を推進することで、児童に算数の楽しさを体感させ、算数の授業を心待ちにする児童を育てる。
- ② 問題解決的な学習を身に付けることで、主体的に生き生き取り組む児童を育てる。
- ③ 学習形態や指導方法を研究し、個に応じた手立てを追求することで、児童の学びの質を高める。

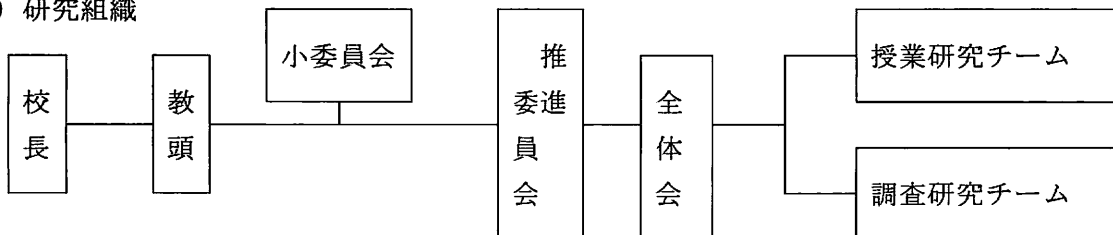
(2) 研究主題の設定

自ら学び、自ら判断し、正しく行動できる力や個性を認めつつ、他と協調できる豊かな心や体力など、「生きる力」の育成を目指した教育活動が展開されている。学力低下や学ぶ意欲の低下の危惧が叫ばれ、保護者は、我が子の学力の確実な定着を望むとともに学校での教育の方針や指導法などに関心をもっている。

本校の児童は、明るく素直であり、学習に真面目に取り組む子が多い。その反面、自分の考えをしっかりと持ったり、はっきり伝えたりすることが、苦手な児童が多い。入間地区学力調査では、入間地区の平均より下回る項目があり、基礎的な内容の理解が不十分な児童がやや多い。学力差が大きく、個に応じた指導を実施することにより、学習意欲を継続させ、豊かな表現力を培う必要がある。

本校の学校教育目標「考える子、仲よくする子、がんばる子」である。この目標を達成するためには、児童が主体的に問題に取り組み、既習事項を使って問題を自力解決し、自ら学ぼうとする力を十分身に付けさせる必要がある。

(3) 研究組織



2 研究の内容

研究主題を達成するために、目指す児童像や仮説を設定し、それに基づいて授業研究チーム、調査研究チームに分かれて進めた。

(1) 研究仮説

① 系統性を明らかにし、重点的な指導を行うことにより学習内容の基礎・基本を身に付けた子が育つだろう。

○四則計算の系統表を作成する。

- ・単元の学習内容の基礎・基本
- ・次の学年を見通した指導

○学習内容の重点化を図った指導計画を作成する。

- ・学年のつながりを考えた計画
- ・評価規準の精査

○年間15回のスキルタイム有効に活用する。

- ・授業と関連したスキルタイム
- ・学習内容の重点を中心にしたプリントの作成
- ・基礎コースと発展コースの選択

② 問題解決学習を充実させることにより主体的に判断し、ねばり強く問題を解決する子が育つだろう。

算数の授業では、基本的な進め方を決め実践している。1時間の授業の流れは「問題を知る」→「課題をつかむ」→「見通しを立てる」→「自力解決する」→「発表し話し合う」→「まとめる」→「振り返る」

○「よい問題」の提示

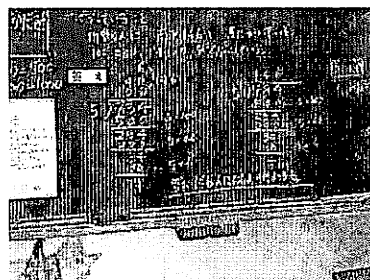
- ・児童の意欲を喚起する問題
- ・多様な考えを引き出す問題
- ・既習事項を使えば必ず解決できる問題

○次の学習に生きるノート指導

- ・マス目のノートの使用
- ・学習過程の明記

○意欲を高める評価の工夫

- ・自己評価（振り返りカード）



③ 個に応じた支援を工夫することにより教えたり、学び合ったりする子が育つだろう。

○個の課題に応じた支援計画

- ・ヒントカード
- ・具体物、半具体物を示す。
- ・多様な考えを引き出す支援

○自力解決を助ける小集団指導

- ・既習事項の振り返り

○キーワードを使ってまとめ、練り上げを工夫させる。

- ・まとめと課題の呼応した言葉でまとめる。

(2) 研修計画

| | |
|-------------|--|
| 一 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・仮説の再検討、本年度の取り組みを明確にする。 ・各研究チームの活動内容を確認し、実践する。 ・指導案形式の共通化を図る。 ・第1回児童の意識調査と各学力調査の考察。 ・授業研究会の実施。 <p>3年 「新しい計算を考えよう」 6年 「分数のたし算ひき算を考えよう」 2年 「ひき算のしかたを考えよう」 4年 「わり算のしかたを考えよう」 5年 「小数わり算を考えよう」 1年 「のこりはいくつちがいはいくつ」</p> |
|-------------|--|

| | |
|----|---|
| 二期 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の第2回意識調査を行う。(9月) ・研究発表会に向けて、研究発表の仕方を検討する。 ・研究発表会の開催《11月22日 授業公開と研究協議(全学年)》 |
| 三期 | <ul style="list-style-type: none"> ・第3回意識調査を行う(2月) ・検証授業会の実施。第3学年 「かけの筆算を考えよう」 コース別学習 ・成果と課題をまとめる。 |

(3) 実践事例 第1学年 ひき算「繰り下がりのある減法」

(1) 本時の目標

減加法と減々法による計算の仕方やその違いを理解している。

【数量や図形についての知識・理解】

繰り下がりのあるひき算の計算の仕方について、多様な考え方ができる。

【数学的な考え方】

(2) 本時の展開

| 分 | 学習活動、主な発問(○)と予想される児童の反応 | ・指導上の留意点 □評価 ☆支援 |
|----|---|---|
| 2 | <p>I問題を知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>おかしが12こ あります。</p> <p><input type="checkbox"/> たべると、のこりはなんこですか。</p> </div> <p>Cできないよ。いくつたべたかわからないよ。 O7こ食べました。のこりはなんこですか。 Cのこりは5こです。 Cかんたんだよ。きのうとおなじだよ。 O3こたべたらどうですか。 Oどんなしきになりますか。 C12-3です。</p> | <p>・前時までに、減加法を学習し、減々法も取り上げている。</p> <p>・ひく数に着目させる。 ☆T2 前時までに遅れがちな児童には、算数コーナーに着目させる。</p> |
| 3 | <p>2めあてを知る</p> <p>O きのうちがうところはどこですか。 C 3になったよ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>ひくかずが3のときのけいさんのしかたを かながえよう。</p> </div> <p>O 今日のまとめは、「ひくかずが3のときのけいさんのしかたは、<input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/>」です。四角の中に入れられるようにしましょう。</p> | <p>・前時との違いを意識させ、めあてを確認する。</p> <p>・めあてをノートに書く。 ・書けた児童には、頭の中で作戦を考えるように指示する。</p> <p>・まとめを意識させる。</p> |
| 10 | <p>3自力解決する</p> <p>左を分ける(減加法) 右を分ける(減々法)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> <p>C1 しき</p> <p>12-3</p> <p>102</p> <p>10-3=7</p> <p>7+2=9</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> <p>C3 しき</p> <p>12-3</p> <p>21</p> <p>12-2=10</p> <p>10-1=9</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> <p>C2 ことば</p> <p>12を10と2にわけると。 10から3をひいて7。 7と2で9。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> <p>C4 ことば</p> <p>3を2と1にわけると。 12から2をひいて10 10から1をひいて9</p> </div> </div> | <p>【算数コーナー】</p> <p>考 繰り下がりのあるひき算の計算の仕方について多様な考え方ができる。(ノート)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px;"> <p>12-7</p> <p>25</p> <p>12-2=10</p> <p>10-5=5</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px;"> <p>12-7</p> <p>102</p> <p>10-7=3</p> <p>3+2=5</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <p>12を10と2にわけると。 7を2と5にわけると。 わけてひいていけばよい。</p> </div> <p>☆T2 算数コーナーで小集団指導を行う。 前時の学習を想起して、減加法で自力解決できるように支援する。</p> |

| | | |
|----|--|--|
| | <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>C5 ブロック</p> <p>□□□□□□□■</p> <p>□□</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>C6 ブロック</p> <p>□□□□□□□□■</p> <p>■</p> </div> </div> | <p>・T1 減加法で解決できた児童には減々法に、減々法で解決できた児童には減加法にチャレンジさせる。 1つのやり方で解決できた児童には、ブロックや言葉などで表せるように助言する。発表者を探す。</p> <p>知 減加法と減々法による計算の仕方やその違いを理解している。(ノート)</p> |
| 10 | <p>4発表する。</p> <p>○自分の考えと友だちの考えを比べながら聞きましょう</p> <p>○違うのはどこですか。</p> <p>C 右をわけてるのと左をわけているのとあるよ。</p> <p>C 2つのなかまにわけられるよ。</p> | <p>・C1～4まで取り上げる。</p> <p>・減加法(C5)の児童を取り上げ、ブロック操作をして発表させる。</p> <p>☆T2 小集団に集まった児童を中心に支援していく。</p> |
| 5 | <p>5話し合う</p> <p>○今やってくれたのはどちらに似てるかな。</p> <p>C 10から3をひいているよ。</p> <p>C 10を3と7にわけているよ。</p> | <p>☆T2 意見が出ない場合はT2が発言し、一緒に練り上げる。</p> |
| 7 | 6.まとめる | |

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- 児童
- ・学習内容を理解し、算数の授業を心まちにしている児童が増えた。
 - ・友達の考えを聞く姿勢（聞き方、質問の仕方等）がよくなった。
 - ・少人数にすることで、以前は発言の少なかった児童も積極的に取り組む姿勢がみられた。
 - ・分からないことをそのまましないで、努力するようになった。
 - ・検証授業会を実施する。3年 「かけ算2」 コース別学習
 - ・今年度の成果と来年度の課題をまとめる。
 - ・学習の仕方、順序が身に付き、自力解決の時間には意欲的に取り組むことができた。
 - ・「算数コーナー」の設置、ノートでの振り返り、「考えのヒント」などにより、既習事項を生かした多様な考えができる児童が多くなった。
 - ・「自分の言葉」でまとめることで、より理解が深まった。
 - ・自力解決では、ねばり強く考え、発表を意欲的にするようになった。
- 教師
- ・日常の授業においても、仮説を意識して取り組むことができた。
 - ・「系統性」を理解して指導することで、押さえるべき学習内容が明確になった。
 - ・問題提示（よい問題）の工夫により、児童の意欲を喚起することができた。
 - ・課題の立て方がわかり、自力解決やまとめで効果的なノート指導ができ、評価に生かすことができた。

(2) 課題

- ・さらに「よい問題」の追求と適切な課題提示の仕方を研究する。
- ・算数科の学習で身に付いてきた思考力を、他の教育活動の実践に生かしていく。
- ・指導計画の細部の連絡調整をきめ細かくする。
- ・児童の習熟度に応じた支援、指導の方法をさらに追求する。

「未来を手にする生きる力と自立心を身につけた児童の育成」

～確かな学力を伸ばす学習指導法の工夫改善を中心に～

川越市立古谷東小学校

研究のポイント

- 国語科・算数科を同時に研究し、共通の土台として課題解決学習（問題解決学習）を基本とした指導過程の工夫を通じた授業改善
- 小規模校という本校の特徴を生かした、少人数における個に応じた評価と支援のあり方
- 授業をささえる学習環境の整備

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

- ① 学び方の定着を図り、自ら進んで学習に取り組む児童の育成
- ② 個に応じた評価・支援のあり方を工夫し、確かな学力の定着
- ③ 指導過程工夫を通じた授業改善と指導力の向上

(2) 研究主題設定の理由

- ① 児童の実態と学校教育目標から

児童の実態

児童数の減少により全学年1学級に

<よい面>

- 指導が徹底する
- きめ細かい指導が十分にできる
- 一人の活動場面が多い

<課題となる面>

- 教師が手をかけすぎて依頼心が強い
- 競争意識に乏しく切磋琢磨する機会が少ない
- 人間関係が狭い

本校では、学校教育目標「意欲あふれ心豊かな子どもの育成 かしこい子 やさしい 子たくましい子」の具現化をめざし、めざす学校像「生きる喜びがあふれる学校」を掲げて努力している。

「生きる喜びがあふれる学校」とは、子どもたち一人一人が元気に活動し、学ぶ喜びにあふれている姿である。これは、学校教育目標に直結している。また、「かしこい子 やさしい 子たくましい子」では、知・徳・体のバランスのとれた能力を伸ばし、社会の要請である「生きる力」を身につけさせることをめざしている。さらに、本校では、学校教育目標達成のために、「自ら」を合言葉にしている。「自ら考える」「自ら行動する」「自ら解決する」ことを通して、21世紀を担う子どもたちが「未来を手にする自立心」を身につけることを強く願っている。

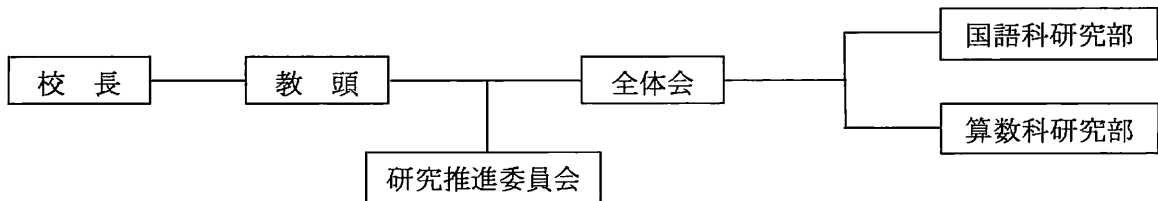
- ② 今日的課題との関係から

平成15年12月に学習指導要領が一部改正され、「生きる力」の知的側面である「学力」

に重点を置き、児童一人一人に「確かな学力」を身につけさせることが強調された。さらに、PISA調査など国際的な学力比較調査の結果から、日本の子どもたちが「読解力の低下」や「学習意欲や学習習慣の不足」等の問題点を抱えていることが指摘され、学力向上を求める機運が高まっている。埼玉県においては、平成17年度から「教育に関する3つの達成目標」への取組が進められている。

本校では、こうした国や県の動向を踏まえ、研究テーマとして「生きる力」と「自立心」を掲げ、本校の児童一人一人に主体的に学ぼうとする学習意欲を基盤とした確かな学力を身につけさせるべく学習指導法の工夫改善に取り組むものである。

(2) 研究組織



2 研究の内容

(1) 研究仮説

仮説1 学習意欲を高め、学び方を身につければ、自ら進んで学習に取り組む児童が育つであろう。

仮説2 一人一人の学力の実態を把握し、適切な指導・支援を行えば、一人一人の力を確実に伸ばすことができるであろう。

仮説3 自分の考えを持ち、それを交流する場で工夫すれば、生きる力を（学力・自立心）伸ばすことができるであろう。

(2) 研究部の取組

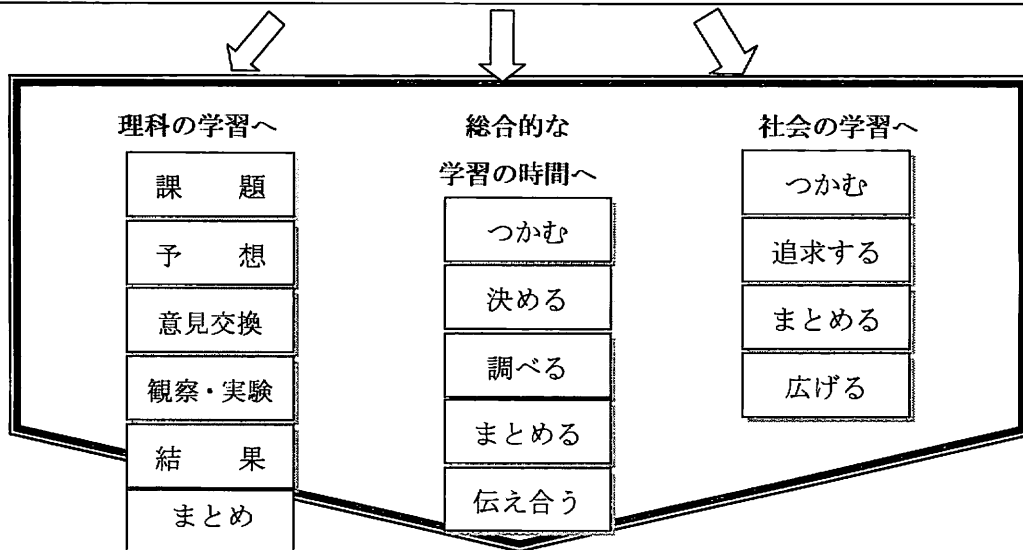
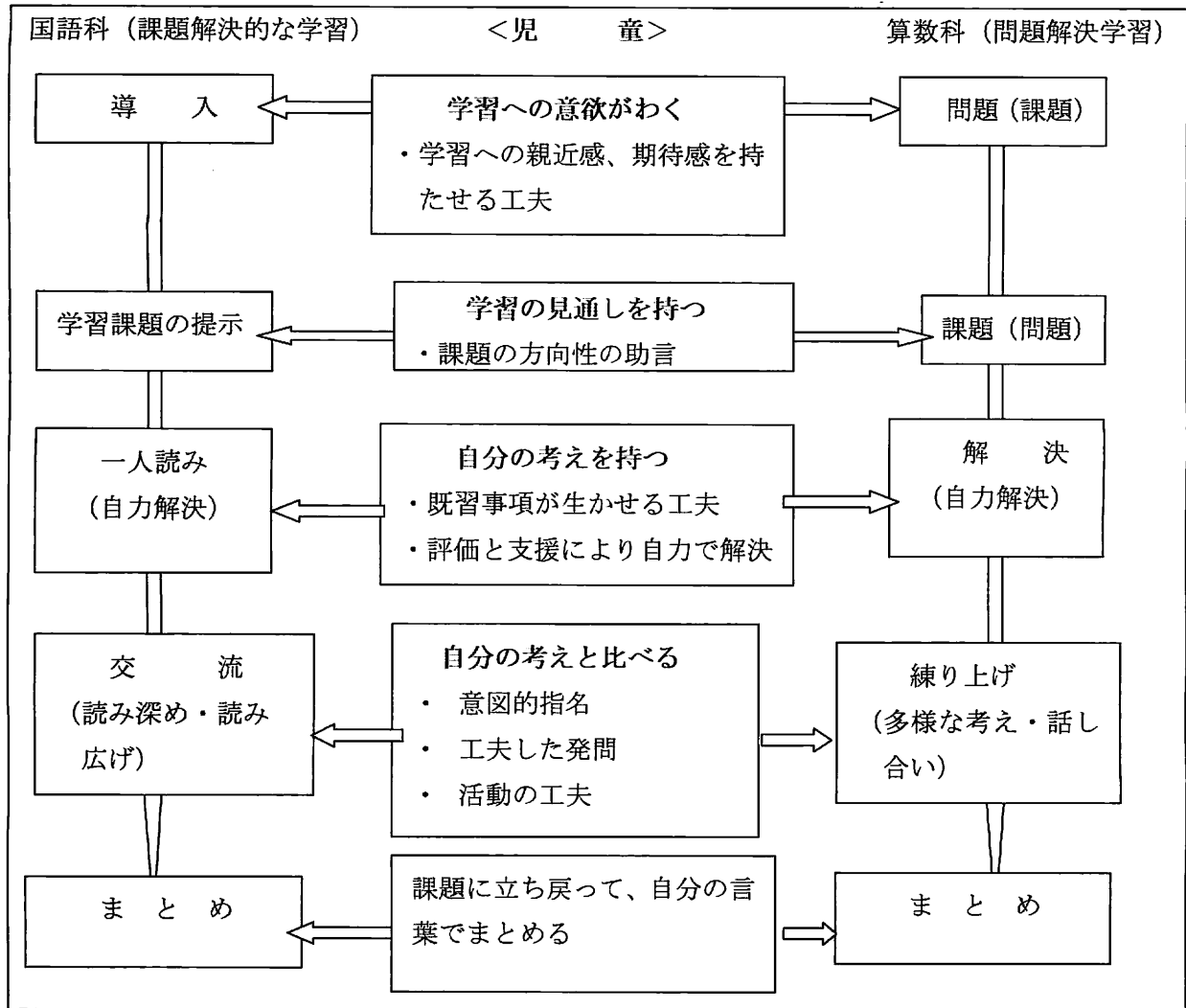
| 国語科研究部 | 算数科研究部 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査分析 ・課題解決的な学習指導過程の研究 ・授業研究（指導案作成） ・授業研究（指導案作成） ・音読 ・ビジュアル的板書の工夫 ・スキルタイムの計画推進 ・作品コーナーの計画的活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査分析 ・問題解決学習指導過程の研究 ・効果的な少人数指導の研究（コース別・TT指導） ・授業研究（指導案作成） ・評価方法についての研究 ・スキルタイムの計画推進 ・環境整備（算数コーナーの掲示等） |

3 実践例

(1) 学習過程を明確にした授業改善へ

国語科では、「読むこと」を中心に課題解決的な学習を、算数科では、問題解決学習を授業の基本とした。この学習過程を繰り返し授業展開することで、児童の学び方の定着を図ると共に教師の指導力の向上をめざした。さらに、国語科と算数科を並行して授業実践することを通して、「学習過程・個に応じること・思考を練ることなど」が他教科へも広げられる

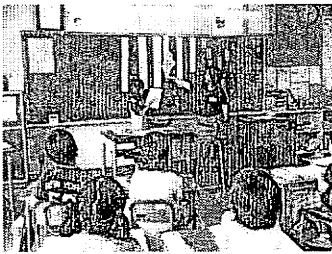
と考えた。



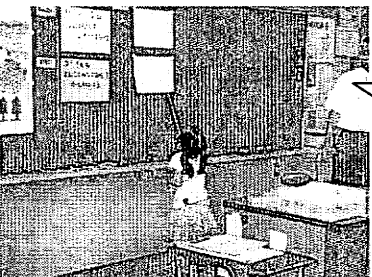
未来を手にする生きる力と自立心を身につけた児童

(2) 授業実践例

国語<交流(読み深め・読み広げ)>の場面

| 段階 | 学習活動 | 学習内容 | 支援と指導上の留意点(*) |
|----|--|---|---|
| 交流 | <p>4 除述をもとに想像する読み方をする。</p> <p>・ペープサートを使って発表する。</p> <p>登場人物に同化させながら楽しく読むための工夫として、ペープサートを使う。</p> | <p><読み取る内容></p> <p>・たからものを見つけたおにの子の様子や気持ち</p> <p><読み取り方></p> <p>・行動描写に着目した読み方</p> <p>全体ばかりではなくグループやペアでの交流も行う。板書は、文図を取り入れて、表現や内容の関係がわかりやすいものにする。</p> | <p>・ペープサートで発表することで、おにの子になりきって発表しやすいようにする。</p>  |

算数<練り上げ(筋道を立てて発表する場面)>

| 段階 | 学習活動 | 指導のポイント |
|-------------|--|--|
| 練り上げ 15分 | <p>○ 発表する。</p> <p>○ 自分の考えと比べながら聞く。</p>  <p>代表例をもとに課題にせまる。 ○○さんとの違いは、どこですか。 似ているところは、どこですか</p> | <p>*発表させる</p> <p>□筋道を立てて説明できる。</p> <p>国語との関連 自分の考えを筋道を立てて発表するために</p> <ol style="list-style-type: none"> ①発表します ②まず始めに ③次に・・・ ④まとめると ⑤何か質問は、ありますか。 |

4 研究の成果(○)と課題(●)

- 授業における解決の場面で、既習事項を活用して自分なりの解決へ向けて取り組めるようになってきた。
- 自力解決での表現内容に質的な向上がみられるようになり、「生きる力」としての自力で読む力や問題解決力がのびてきた。
- 国語科、算数科以外の教科指導においても、問題(課題)解決的な学習過程を意識した展開を試みるようになった。
- 学習の見通しの持たせ方、自力解決の場面での見守りや支援のあり方、自己評価の在り方等、他の教科にも広げていく。
- より一層の自立心を持って取り組むための発展的な学習への指導の工夫をしていく。

研究主題

「わかる喜び」「できる喜び」を味わわせる学習指導法の工夫改善 ～算数科を核とした確かな学びの定着を目指して～

川越市立高階小学校

研究のポイント

- 基礎・基本の学習内容を明確にし、確かな学力の定着を図る。
- 「一人一人が学ぶ」「みんなで学び合う」過程を通して問題解決学習を推進していく。
- 個に応じた指導に向けての指導方法・指導形態（少人数指導、T T指導）の工夫をする。
- 学び方の定着を図り、一人一人の子どものよさを認め励まし、共に伸びる姿勢「あいあいの哲理（感じあい、認めあい、和みあい、教えあい、育ちあい）」を基本に育成する。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

教えて考えさせる教育を基本として、自ら学び自ら考え行動する児童の育成をする。そのために、算数科を核とした確かな学びの定着を図り、問題解決学習を中心とした学習指導の工夫改善に取り組む。また、少人数指導等、T T指導の方法も工夫し、個に応じた指導に徹する。

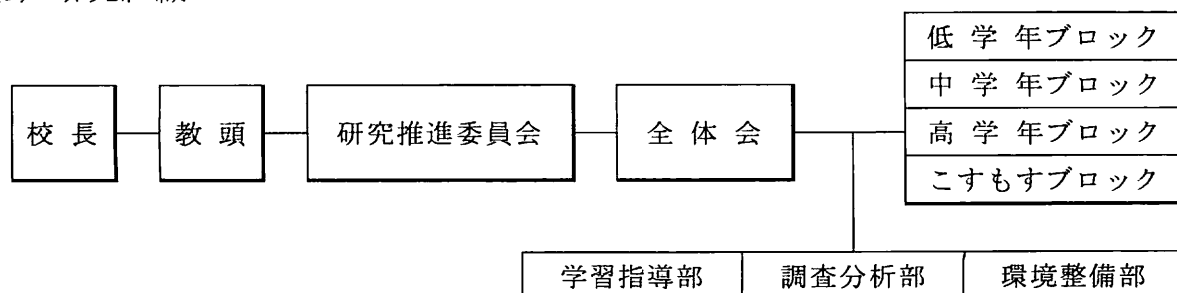
このような取り組みにより、児童が「わかる・できる喜び」をより多く味わい、算数のよさを知り、自信や意欲を持って学習に取り組めるようになることを研究のねらいとしている。

(2) 研究主題の設定の理由

本校の児童は、概ね基礎学力は身に付いているものの、学習を主体的に進めたり、思考・判断し表現したりする力が不十分である。特に、問題解決の場面では、思考過程の部分が浅く安易に結果を出したがる傾向がある。また、一人一人の学び方、学習の習得に個人差があり、個に応じて対応していく必要がある。

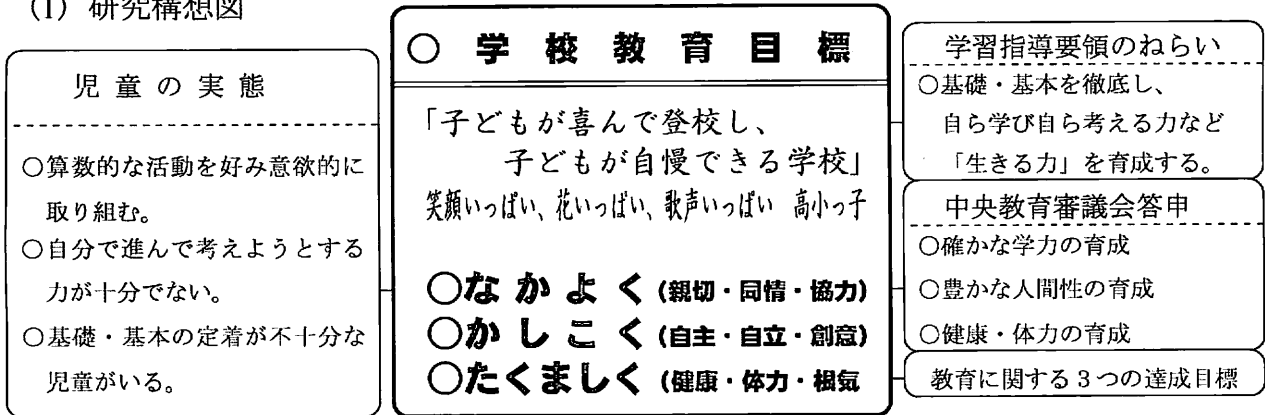
そこで、学習指導法の工夫改善を通して、①課題に対して思考、判断し自ら解決していく力を付けること ②個に応じた指導を充実させ基礎・基本の学力を身に付けること ③学習過程での教え合い、学び合い等（あいあいの哲理）を大切にした授業を目指し、全教育活動を通じて積極的な生徒指導を推進すること等から、本主題を設定した。

(3) 研究組織



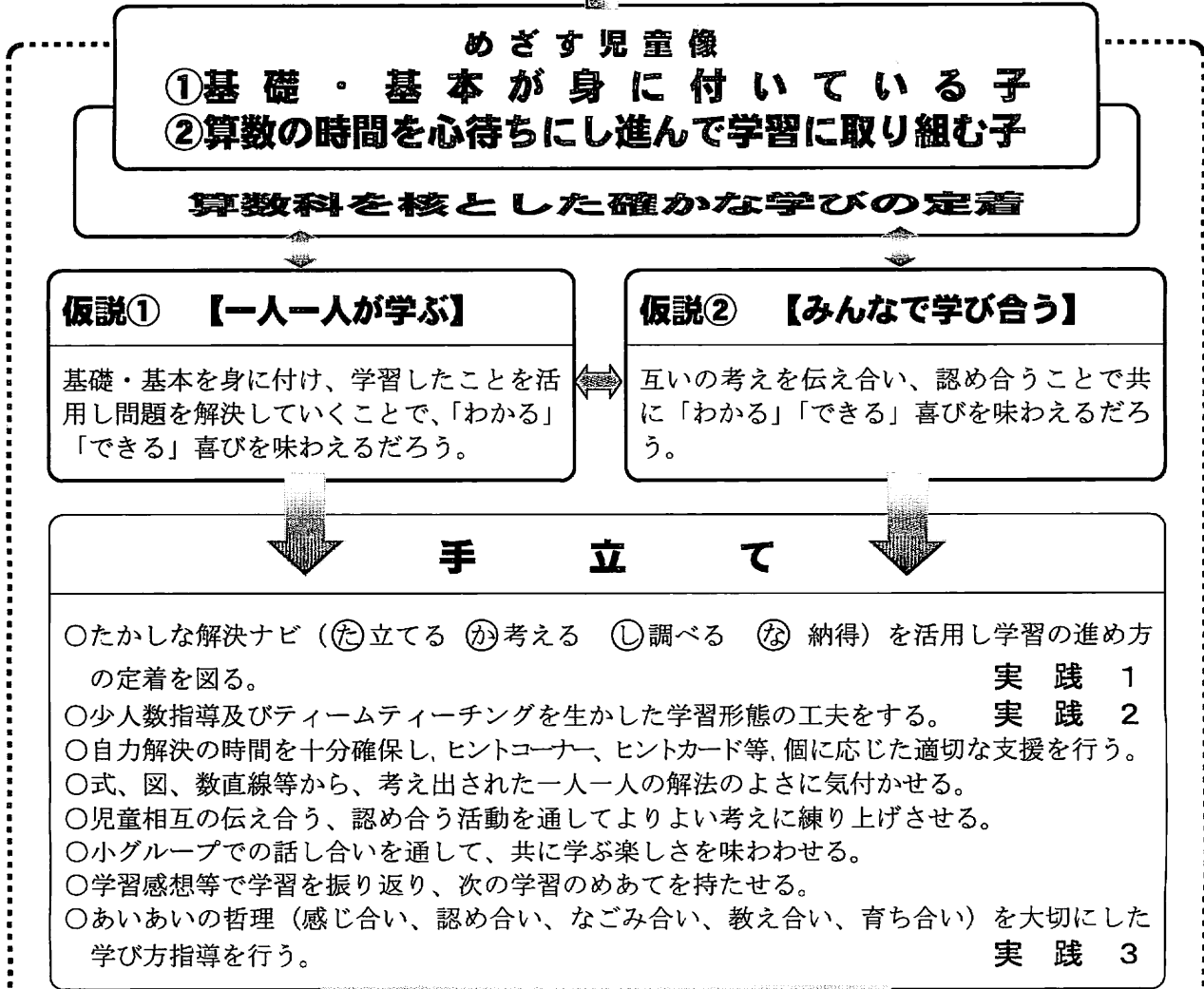
2 研究の内容

(1) 研究構想図



研 究 主 題

『わかる喜び』『できる喜び』を味わわせる学習指導法の工夫改善



学 級 経 営

3 実践事例

(1) 実践1 たかしの解決ナビによる問題解決学習の推進

① 問題・課題に対して、「たかしの」で解決していく学習過程の定着を図った。

㊦ 予想を立てる……既習の学習を生かし問題を見通す場

・「わかっていることは？」「求めることは何だろう」等、問題から課題を導き出し、何を考えるのかを明確にした。



第1学年

「ひきざん」

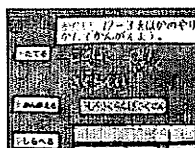
「ケーキを3つください。」
2人の教師の演技による
導入の工夫



第2学年

「九九をつくろう」

かけ算物語ミスターAからの
挑戦状「きょうは、こんな
もんだいがとどいたよ。」



「たてる」の内容…ことば、まるず、しき、ぶろっく、さくらんぼ等、
これまでの学習から作戦を考えた。

㊧ 自ら考える……自分の考えをまとめたり、生かしたりする場

・「どんな作戦があるかな」テープ図、数直線、表等、
これまでの解決方法を出す中で、一人一人がそれぞれの
方法で自力解決した。



第3学年 前時のノートを振り返り学ぶ姿。
算数コーナーも見たりする。



第4学年

「わり算の筆算を考えよう」

・T2がヒントコーナーを開き、自力解決できない児童にヒントを出し支援した。



第6学年

「分数のわり算を考えよう2」

・グループに分かれて、教え合い学習を深める。

㊨ みんなで調べる…自分の考えとを比べながら理解し確かなものにする場

・自力解決したものを発表した。
・「それぞれの考えのにているところ、違うところ」
「簡単にできる方法は？」等、友達の考えのよさを
認め合いながらよりよいものをつくっていった。



第2学年 「どうして〇と考えたんですか」
説明できないときには先生が支援

㊩ 納得……振り返り評価する場



・わかったことを自分の言葉で書きました。
・単元の終わりには学習を振り返った感想を書きました。
・全員でまとめた新しい考えを生かして、もう1問、確かめ問題を解いて納得する場をつくった。
・納得の形は、学年により色々工夫した。

第6学年 少数担当教師より
「きょうの学習はどうしてたか。」
「納得できましたか。」と笑顔で聞く。

「なっとくちゃんマークに〇をつけましょう。」
「なっとくできた人は、手をサインを送ってください。」

- ② 「たかしな」の黒板表示カードを準備し積極的な活用を図った。
- ③ 低、高学年別にノートを使い方を決めた。
- ④ 授業の振り返り、単元の振り返りを行い学習のよかったところ反省するところを発見できるようにした。

(2) 実践2 少人数指導による個に応じた指導の実践

- ① 担任による一斉指導
- ② 担任と少人数指導担当教師との連携指導



3年生3学級を少人数指導教員を加え、4教室（ガッチリ①②、バッチリ、スッキリコース）に分けてコース別学習を行った。

第3学年「かけざんのしかたを考えよう」



多角形の角の和を求める方法をグループに分け多様な考えを出させた。
2人の教師でグループを分けて担当し、「すごい方法見つけたね。」等、一人一人の考えを認めるをつけ、よさを認める言葉がけを行った。

第5学年 「図形の角のひみつ調べよう」

(3) 実践3 伝え合う、認め合う活動から共に学ぶ楽しさを味わわせる実践



こすもす学級 「わたしの一日」(時計)

子どもたちから出た様々な声に教師は答えていきます。

「◎(調べる)」では、子どもたち同士で考えを出し合い、みんなで答えを見つけていった。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- たかしな解決ナビを活用した授業を進めるうち、児童が学習の流れを理解しながら、進んで考えられるようになった。
- 2年生では、問題提示を「高小かけ算物語ミスターAからの挑戦状」としてストーリー化して取り組むことで、長期の単元でも楽しんで学習を進めることができた。
- 問題解決学習により、児童が自分の考えをわかりやすく説明できるようになった。(発表力・表現力・説明力・質疑応答する力が身に付いてきた)また、授業のまとめや「納得」が自分の言葉で書けるようになった。
- 日頃から、教職員が『学びのアラカルト』をもとに、共通の考えに立って学び方(学習規律・解決ナビ等)指導してきたので、複数学級によるコース別学習や学年が進級しても、円滑に学習が進められるようになった。
- こすもす学級では、具体物を用意し、個に応じた指導助言をすることで最後まで学習に集中して取り組むことができた。
- コース別学習で、発展的な内容の問題に触れることで知的好奇心を深めることができた。

(2) 課題

- ・ チームティーチングでは、T1とT2の役割を明確にしたが、授業のどの場面でどのような連携をしていくのか、さらに事前の研修が必要である。
- ・ 思いを大事にコース選択をするが人数のバランスに苦慮する。
- ・ 問題解決学習等を更に推進し「聞く力」「話す力」を向上させたい。
- ・ 算数科を核として身に付けた学び方の学習を定着させ他の教科等にも拡大していきたい。

研究主題

「個性を伸ばし、創造性を育む学習指導の充実」

～考えや思いを進んで伝え合う力を育む国語科指導法の工夫・改善～

川越市立川越第一小学校

研究のポイント

- 学年の系統性を踏まえた教材を開発し、継続的に取り組む場を設定することにより、話すこと・聞くことにおける基礎・基本の定着を図る。
- 学習過程において、話し合いの場を意図的に設定し、お互いのよさに気づくようにする。
- 評価のあり方を明確にし、評価方法を工夫することにより、進んで伝え合う力を身に付けるようにする。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

指導方法の工夫と改善を通して

- ① 話すこと・聞くことにおける基礎・基本の定着を図り、確かな学力を身に付けること
- ② 進んで話し合いに参加し、相手の意図をつかみながら、自分の考えや思いを伝え合う力を育成すること

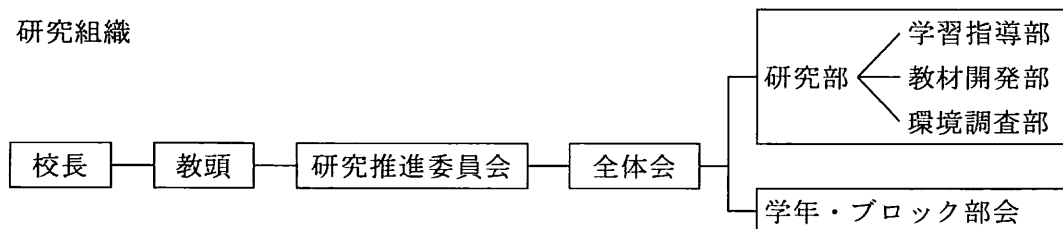
をねらいとして、研究を進める。

(2) 研究主題設定の理由

本校では、平成16・17年の2年間、算数科指導法の工夫・改善についての研究を行い、算数科に対する興味や意欲が高まったり、知識・理解が高まったりするなどの成果を上げることができた。しかし、その研究の結果、「表現力を高めていくための継続的な取組が必要」という課題が出された。本校の児童は、素直で子どもらしく学習へも意欲的に取り組んでいるものの、自分の思いがうまく伝えることができなかつたり、相手の意図をうまく汲み取れなかつたりしたためにトラブルになったり、思いやりのない行動をしたりする児童が見られる。

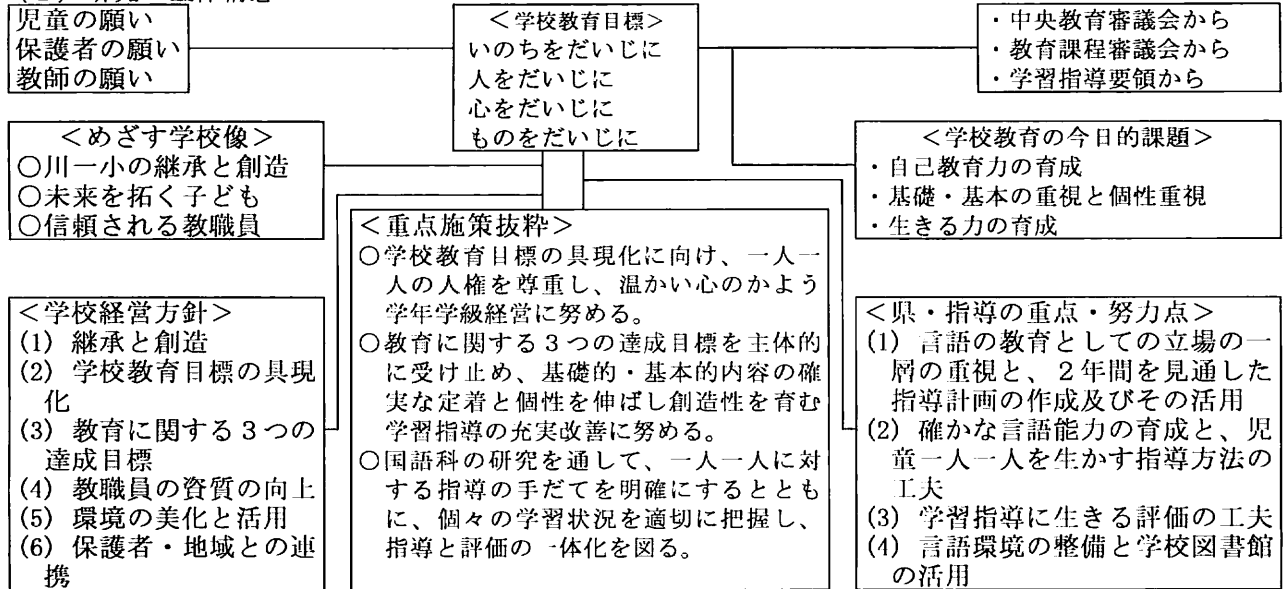
これらのことから、本校の教育目標である「四つのだいじ(いのちをだいじに・人をだいじに・心をだいじに・ものをだいじに)」の具現化を目指し、全職員の共通理解のもと「個性を伸ばし、創造性を育む学習指導の充実」を研究主題に、副題として「考えや思いを進んで伝え合う力を育む国語科指導法の工夫・改善」に設定した。そして、指導方法の工夫・改善（教材開発、学習過程の工夫、支援、評価等）を通して基礎・基本の定着を図りながら、研究主題に迫っていくこととした。

(3) 研究組織



2 研究の内容

(1) 研究の全体構想



研究主題

個性を伸ばし、創造性を育む学習指導の充実

～考えや思いを進んで伝え合う力を育む国語科指導法の工夫・改善～

目指す児童像

<低学年ブロック>

- 進んで話し合いに参加しようとする子
- 話をよく聞き、自分の考えや思いを伝えることができる子

<中学年ブロック>

- 進んで話し合い、自信を持って伝え合おうとする子
- 話の中心に気を付けて聞き、筋道を立てて話すことができる子

<高学年ブロック>

- 進んで話し合い、自分の考えを深めようとする子
- 相手の意図することをつかみながら聞き、的確に伝えるように話すことができる子

研究仮説

- 仮説1 学年の系統性をふまえた教材を開発し、継続的に取り組む場を設定すれば、話すこと・聞くことにおける基礎基本が定着し、進んで伝え合う力が身につくだろう。
- 仮説2 学習過程において、話し合いの場面を意図的に設定すれば、お互いの考えのよさに気づき、進んで伝え合う力が身につくだろう。
- 仮説3 評価のあり方を明確にし、評価方法の工夫・改善をすれば、伝え合うよさが分かり、進んで伝え合う力が身につくだろう。

手だて

<仮説1>

- 毎時間5分間、発声練習やスピーチの場を設定する。
- ・発達段階に応じた資料の精選
- ・学習内容に適した題材の吟味
- ・スピーチ技能の取得
- 学年の系統性を踏まえた単元・教材を開発する。
- ・「話すこと・聞くこと」の目標、内容を重点化した単元、教材の開発
- 言語環境の整備に努める。
- ・「声のものさし」「国語コーナー」等掲示物の充実

<仮説2>

- 「書くこと」「読むこと」を主領域とした単元においても、話し合いの場を設定する。
- ・「書くこと」「読むこと」の目標達成手段としての話し合いの場の設定
- ・「話すこと・聞くこと」の目標内容を明確にした学習活動
- ・年間指導計画の見直し
- 「基礎基本」となる「身に付けさせたい力」を設定する。
- ・「話すこと」における態度、技能、言語事項
- ・「聞くこと」における態度、技能

<仮説3>

- 「話すこと・聞くこと」における評価基準を明確にする。
- 児童の実態把握に努める。
- ・「話すこと・聞くこと」に対する児童の意識調査の実施
- ・個に応じた指導、支援のあり方の考察
- 評価方法の工夫・改善
- ・自己評価カードの作成…発達段階に応じ、評価の観点を明確にする。
- ・共感的理解に基づく相互評価の実践…伝え合うことよさに気付かせる。
- ・個票や座席表、名簿等を活用し、個に応じた指導に生かせる評価をする。

(2) 研究部の活動

① 学習指導部

ア 指導案形式…「話すこと・聞くこと」を主領域とした単元と「読むこと」を主領域とした単元での指導案形式。

イ 「身に付けさせたい力」の作成…「話すこと・聞くこと」それぞれについて、観点を定め、低・中・高別に作成。

ウ 具体の評価規準及び相互評価カード、自己評価カードの作成

エ 「話し合いの方法」の作成

② 教材開発部

ア 「1分間スピーチ」題材の研究…方法及び具体的な手順、スピーチ題材について

イ 詩集の作成…月ごとに、6学年分を作成。

ウ 「聞き上手」「話し上手」「発表の仕方」の作成(環境調査部と連携しながら)

エ 音読技能の系統把握、学び方ノートの作成

③ 環境調査部

ア 実態調査の実施・分析

イ 掲示物の作成…「声のものさし」「原稿用紙の使い方」

ウ 音声に関わる資料提示…わくわく広場や学年掲示板へ

3 実践事例

(1) 授業開始時「はじめの5分」の活動(各学年の実践より)

国語の時間のはじめの5分間に、継続的に声を出す活動を取り入れ、はっきりした発音で話すための基礎を培うことをねらいとしている。

| 学年 | 活動内容 | 留意点等 |
|----|------------------|---------------------|
| 1年 | 「せかいじゅうのうみが」の音読 | 口の開け方や発音に注意して |
| 2年 | 「五十音」での発声練習 | 口形に気をつけた発音 |
| 3年 | スピーチ(自分の好きなもの) | 接続語を意識した内容 聞き手からの質問 |
| 4年 | スピーチ(気になるニュースから) | 話の中心に気をつけて 中心を聞き取る |
| 5年 | 絵や漢字からの「ストーリー作り」 | グループエンカウンター方式で |
| 6年 | 詩「生きる」の一斉音読 | 声量や速度、間の取り方に気をつけて |

(2) 学習活動における具体の評価規準及び個別の支援計画の作成

評価と指導の一体化を目指し、より具体的な評価規準を設定し、授業実践を行った。また、これに合わせて、児童個々の実態を把握し、個に応じた支援を行うため座席表を活用

| | | | | |
|-----------------|--|---|--|---------------------------------|
| 学習活動における具体の評価規準 | ①想像を広げてお話を楽しんでいる ②「くじらぐも」に手紙を書いたり、「くじらぐも」になって子ども達に返事を書いたりすることを楽しんでいる。 | ①あらすじをとらえることができる。 ②物語の場面ごとに、登場人物の様子を想像して動作化したり、気持ちを考えたりすることができる ③ 語や文としてのまともりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えて、はっきりした声で音読することができる。 | ① 読んでおもしろかったところを紹介し、話し合うことができる。 ② 子ども達や「くじらぐも」の様子や気持ちを想像して話したり、聞いたりすることができる。 ③ 相手がしっかり聞き取れるように、声の大きさや読む速さに気を付けて音読、ワークシート、手紙の発表をすることができる。 | ①平仮名や片仮名を正しく、はっきりした発音で読むことができる。 |
|-----------------|--|---|--|---------------------------------|

した「個別の支援計画」を作成した。 <具体の評価規準 1年「くじらぐも」>

(3) 身につけさせたい力

伝え合う力の育成を図るために必要なスキルを考え、「話すこと」「聞くこと」で低・中・高学年別に、身につけさせたい「態度・技能（・言語事項）」を表したものである（右図）。授業を行うときには、これを意識しながら実践を行っている。

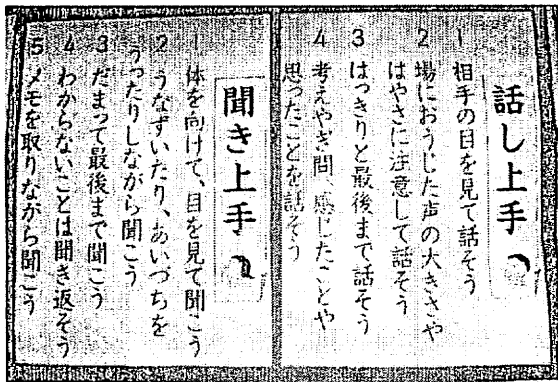
身につけさせたい力

| | 低 学 年 | 中 学 年 | 高 学 年 |
|---------|---|--|--|
| 態 度 | ・進んで話す。 ・聞き手を見ながら話す。 | ・進んで話す。 ・聞き手に伝わっているかを確かめながら話す。 | ・進んで話す。 ・聞き手の反応を見ながら話す。 |
| | ・ていねいに話す。 | ・ていねいな言葉づかいで話す。 | ・ていねいな言葉づかいで話す。 |
| 話 す こ と | ・順序に気をつけて話す。 | ・順序がわかるように話す。 | ・順序や中心に気をつけて話す。 |
| | ・大事なことを落とさないように話す。 | ・組み立てを考えて話す。 ・中心をはっきりさせて話す。 ・要点が伝わるように工夫して話す。 | ・話の組み立てを工夫して話す。 ・事実と感想、意見を区別して話す。 |
| 語 句 事 項 | ・考えをわかりやすく話す。 ・実物や絵を見せながら話す。 | ・感想や意見を話す。 ・具体的な物、絵、写真、資料を見せながら話す。 | ・ねらいや考えがわかるように話す。 ・具体的な物、絵、写真、資料を見せながら話す。 |
| | ・姿勢、口形などに注意して話す。 ・はっきりとした発音、発声で話す。 ・ゆっくり話す。 | ・適切な声の大きさや速さに気をつけて話す。 ・間を取って話す。 | ・声量や温度の工夫をして話す。 ・間の取り方を工夫して話す。 ・場に応じて、身体や表情との表現の使い分けをして話す。 |
| 聞 く こ と | ・静かに聞く。 ・終りまで聞く。 ・話し手を見ながら聞く。 | ・話し手を見てあいづちを打ちながら聞く。 ・メモを取りながら聞く。 ・話の中心に気をつけて聞く。 ・話のまとまりや順序に気をつけて聞く。 ・話の要点に気をつけて聞く。 ・工夫している言葉遣いに着目して聞く。 | ・話し手に共感しながら聞く。 ・問題意識をもって聞く。 ・メモを取りながら聞く。 ・相手の意図を考えながら聞く。 ・事実と感想、意見を区別しながら聞く。 ・はっきりした目的意識をもって聞く。 ・聞く視点をはっきりさせて聞く。 ・意見や感想をもつ。 |
| | ・感想をもつ。 ・わからないことを聞きなおしたり、尋ねたりする。 | ・意見や感想をもつ。 ・自分の考えと比べながら聞く。 ・接続語や文末表現を意識しながら聞く。 | ・意見や感想をもつ。 ・自分の考えと比べながら聞き、考えを深めたり、類推・推測や判断・批判をしたりしながら聞く。 ・適切で効果的な組み立てや言葉遣いに注意しながら聞く。 |

(4) スピーチ題材の設定

6年間を見通した、系統性のあるスピーチ題材一覧及びスピーチの具体的な手順を作成した。これをもとに、朝の会や帰りの会、国語の時間等を使い、1分間スピーチの実践を行っている。また、共通題材も提示した。

(5) 国語に関わる掲示物等の作成



話し上手・聞き上手

声の大きさ

4 成果と課題

(1) 成果

- ・授業開始の「5分間の活動」を全校一斉に行うことにより、はっきりとした「声を出す」習慣が身に付きつつある。
- ・学習過程に意図的に「話すこと・聞くこと」を意識した活動を取り入れることにより、自分の思いや考えを伝えることができるようになってきた。また、話し合いに深まりが見られるようになってきた。
- ・具体的評価規準及び個別の支援計画を作成することにより、支援の方法が明確になり、個に応じた指導の充実を図ることができた。

(2) 課題

- ・「読むこと」「書くこと」の学習における、「話し合い」活動のあり方。
- ・学習の発表の場として「音読朝会」等、全校で声を出していく場の設定。
- ・相互評価及び自己評価を含めた、よりきめ細かい「評価と支援」のあり方。

研究主題

「一人一人の学びを大切にする算数科・国語科指導」

川越市立泉小学校

研究のポイント

- 1 教師の指導力の向上を目指す
- 2 全担任が、国語と算数の研究授業を行う。
- 3 自習時間を少なくするために各学年同じ時間に研究授業を行う。研究協議は一緒に行う。
- 4 研究協議会には積極的に参加する（必ず一度は発言するように努める）。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

- ① 児童一人一人に基礎・基本を確実に身に付けさせることが強く求められている。身に付いた基礎・基本が次の学びや自己表現・自己実現を支えるものとしてはたらくことができる。生きてはたらく「確かな学力」を身に付けさせるために、算数科・国語科を中心とした研究を行う。

「一人一人の学びを大切にする算数科・国語科指導」を研究主題として

ア 基礎・基本の確実な定着を図る

イ 問題解決学習等を通して、考える力を育成する

ウ 話し合い活動等を通してコミュニケーション能力を育成する

エ 個に応じた指導をさらに進める

の4点を研究のねらいとした。

(2) 研究主題設定の理由

- ① 学校教育目標具現化の視点から

学校教育目標 明るくたくましく心豊かな子

○よく学ぶ子

○助け合う子

○がんばりぬく子

「分かる授業」「友だちと学び合う授業」を追求し、基礎・基本の定着、自ら考える力の育成、よりよい人間関係を築く力の育成を目指す。

- ② 今日的な課題から

ア 確かな学力向上のための2002アピール「学びのすすめ」より

- ・きめ細かな指導で、基礎・基本や自ら学び自ら考える力を身に付ける。
- ・発展的な学習で、一人一人の個性等に応じて子どもの力をより伸ばす。
- ・学ぶことの楽しさを体験させ、学習意欲を高める。
- ・学ぶ機会を充実し、学ぶ習慣を身に付ける。

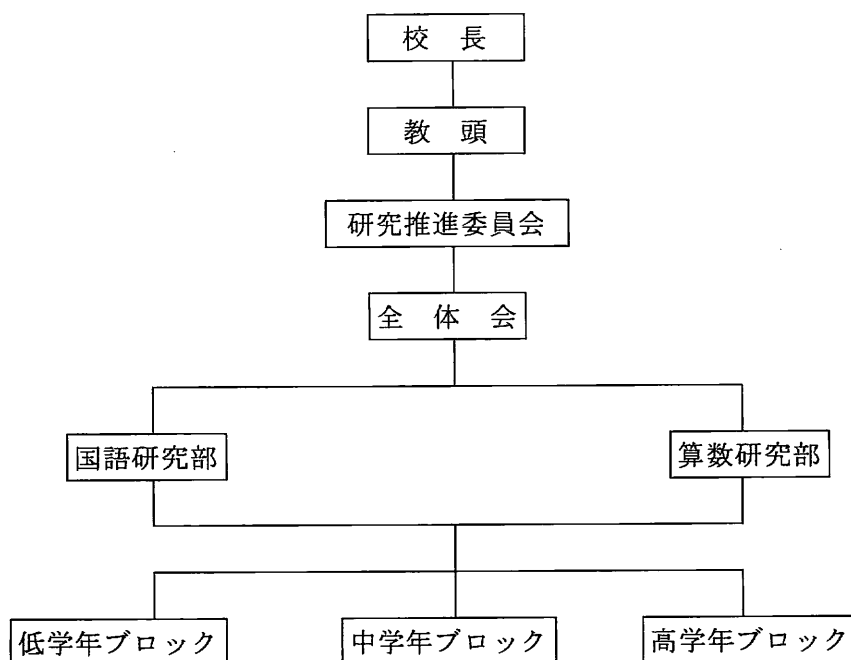
イ 算数科・国語科学習指導要領のねらいより

- ・基礎・基本の定着
- ・楽しさと充実感のある学習
- ・児童の主体的な活動の重視

ウ 児童の実態から

- ・明るく素直な児童が多く、相手を思いやる気持ちも育っている児童が多い。
- ・標準学力検査、入間地区学力調査などでは、ほぼ標準レベルで入間平均と重なる。
- ・いわゆる繰り返し学習を必要とする計算練習や、漢字練習にもよく取り組んでおり力を付けつつあるが、思考力や理解力を必要とする問題については苦手とする児童が多い。また、個人差が大きい。
- ・表現力の育成や粘り強さ、学習意欲の向上も課題である。

(3) 研究組織



2 研究の内容

- (1) 今年度の研究では、昨年度までの研究の成果の上に、「コミュニケーション能力」の育成を重点にして研究を進めてきた。本校ではコミュニケーション能力を以下のように捉えた。

コミュニケーション能力とは、

- ①論理的な思考に基づき事実や意見を論理的かつ明晰に表現できる能力
- ②場面や状況に応じて、聞き手や読み手の立場を理解し、誤解をまねかない表現ができる能力
- ③よりよい人間関係を形成する能力

である。

そして、その育成過程を次のように考えた。

自分の考えや表現したいものを持つ
(問題を見て自分なりの考えや解決方法を持つ)



- | |
|--|
| ア 自分の考えを表現する手段を決める。 (数式、表・グラフ、言葉・文章、具体物 など) |
| イ 目標を持つ。 (自分が納得して表現する、相手に理解し てもらい、相手を説得するなど) |
| ウ 表現する。 (読む、書く、話す、操作・動作など) |
| エ 友だちの考えを聞き自分に取り入れる。 |

- ・表現する場
(全体で、少人数で、2人で)
- ・表現できる力
← (話型の活用、筋道を立てた話し方、
順序を示す言葉の使用)
- ・表現したいという意欲
- ・受け入れてもらえるという安心感
- ・考えを比べながら聞く力
(同じところ、違うところ、似ている
ところ)



相手の考えを聞き、相互に情報交換し、考え
を高めたり、確かなものにしたたりする。 ⇒⇒
(自分の考えと関連づけて理解する。)

**自分の考えを見直し、共に高め合い、
共に活用し合う。
(考えを発展、確かな考えを作り出す)
(様々な考えをまとめて整理する)**

(2) 今年度は、算数科と国語科の授業研究会を中心に研究を進めてきた。研究授業は、各学年の全学級が同じ日の同じ時間に実施した。研究協議会では、外部から指導者を招聘し、ご指導をいただいていた。

3 実践事例

6月28日(水) 国語科第1回授業研究会 授業者：4年
単元名：本と友達になろう 「白いぼうし」

9月28日(木) 算数科第1回授業研究会 授業者：5年
単元名：考える力をのぼそう 【きまりを見つけて】

10月4日(水) 国語科第2回授業研究会 授業者：2年
単元名：ようすを考えて読もう 「お手紙」

10月20日(金) 国語科第3回授業研究会 授業者：3年
単元名：場面の様子をそうぞうしながら読もう
「ちいちゃんのかげおくり」

- 11月 2日(木) 算数科第2回授業研究会 授業者：6年
 単元名：分数のかけ算とわり算を考えよう(1)
 【分数×整数、分数÷整数、分数×分数】
- 11月 9日(木) 算数科第3回授業研究会 授業者：1年
 単元名：たしざん 【くりあがりのあるたし算】
- 11月30日(木) 国語科第4回授業研究会 授業者：1年
 単元名：本とともにだちになろう 「ずうっと、ずっと大すきだよ」
- 1月18日(木) 国語科第5回授業研究会 授業者：6年
 単元名：学習したことを生かして 「海の命」
- 1月29日(月) 算数科第4回授業研究会 授業者：3年
 単元名：重さをはかろう 【重さのはかりかたと表し方】
- 2月 2日(金) 国語科第6回授業研究会 授業者：5年
 単元名：学習したことを生かして 「大造じいさんとガン」
- 2月 8日(木) 算数科第5回授業研究会 授業者：2年
 単元名：4けたの数 【1000より大きい数をしらべよう】
- 2月15日(木) 算数科第6回授業研究会 授業者：4年
 単元名：広さを調べよう 【面積のはかり方と表し方】

4 研究の成果と課題

(1) 成 果

- ①教材・指導法に対する教師の理解が深められた。
- ②研究協議の際に、研究課題解決に向け積極的に発言するようになってきた。
- ③指導案検討をする過程で、職員の結びつきが一層強くなってきている。
- ④指導者の丁寧な指導を受け、新たな知識が身に付いた。

(2) 課 題

- ①学習環境整備を授業研究と並行して進める必要を感じている。
- ②コミュニケーション能力の育成を今年度新たな課題とし、意識して指導してきたが、より一層の取組をしていきたい。
- ③研究の様子を保護者に学校だよりで知らせる等、積極的に情報発信をしていきたい。

研究主題 ● 子どもたち一人一人に[生きる力]を育む教育の推進

——「教育に関する3つの達成目標」の実践を通して—— ●

川越市立南古谷小学校



研究のポイント

- 平成18年度**
- 学力向上カルテ・座席表の活用、振り返りカードの利用等、指導と算教科を 評価のより一層の工夫・改善を図る。
 - 少人数指導の充実を図る。
 - 学習を支える規律ある態度、健康や体力の向上を目指す。
 - 学習支援ボランティアの活用を図る。

- 平成19年度**
- 国語・算数・体育を中心として、子どもたち一人一人に[生きる力]を育む授業を展開する。→3つの達成目標の推進
 - 国語科
 - 算教科 道徳教育との関連の中で、学習を支える規律ある態度、道徳性、
 - 体育科を 道徳的実践力の向上を目指す。
 - 中心として 学習支援ボランティアの活用を図る。

来年度方向

1 研究の概要

(1) 研究のねらい 子どもたち一人一人に[生きる力]を育む教育の推進

——「教育に関する3つの達成目標」の実践を通して——

- ①生きる力の土台となる「読む力・書く力」「計算力」を子どもたち一人一人に確実に定着させるために、指導と評価のより一層の工夫改善を図る。
- ②教育活動全体の中で、道徳教育との関連を図りながら、自立心、自己抑制力、責任感、公共心、社会性、感謝する心、善悪を判断する力など心の成長を促す。
- ③授業や業前運動等の時間を通じて、子どもたち一人一人が設定する「体力向上目標値」の実現を目指す。

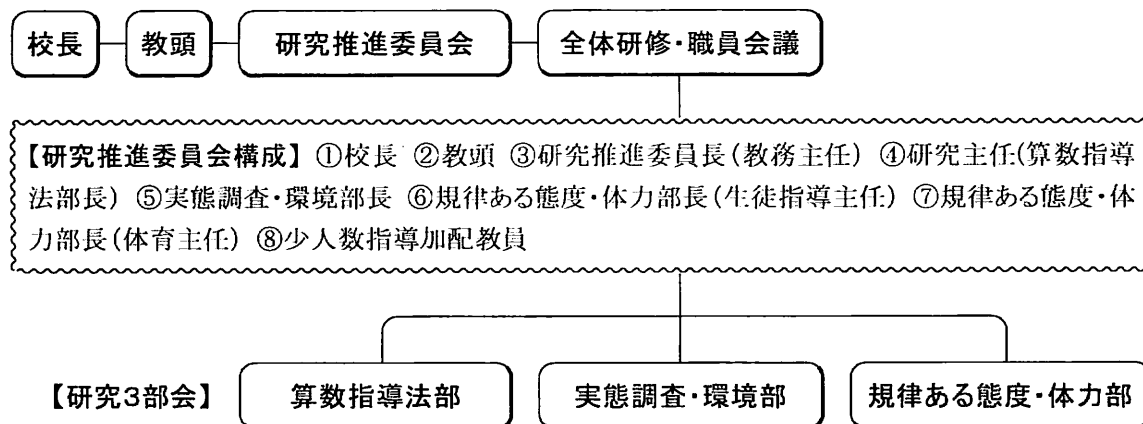
(2) 研究主題設定理由

南古谷小学校では、平成16、17年度の2年間、「一人一人を大切にせる授業の創造」をテーマに、「学力向上」と「自己指導能力の育成」の2つの面から算数の研究に取り組んできた。研究授業を通して、学力向上カルテの作成、座席表の活用、振り返りカードの利用など、個に応じた様々な支援の手立てが考案された。子どもたちも熱心に学習に取り組み、平成17年度の3つの達成目標の効果の検証〔計算〕では、学校全体で県平均を2.8点上回り、子どもたちが確実に力を付けてきていることが確かめられた。

しかし、〔文章を書く〕は、県平均を下回り、平成18年度〔体力テスト〕は、8割の種目が埼玉県の前平均値を下回っていた。また、児童の生育歴及び家庭環境は様々で、学習習慣や学習規律の確立に向けて、特別な支援が必要な児童も多数いる。

そこで、①国語・算数・体育を中心として、子どもたち一人一人に「生きる力」を育む「分かる授業」を展開する、②道徳教育との関連の中で、学習を支える規律ある態度、道徳性、道徳的実践力の向上を目指す、③学習支援ボランティアの活用を図る、等のねらいを持って、さらに2年間、市教育委員会の委嘱を受けて、3つの達成目標の実践に取り組むこととした。

(3) 研究組織



2 研究の内容

(1) 研究の経過

-
- 4月27日(木) 全体会「本年度の学校課題研究について」
 - 5月 1日(月) 3部会、原案作成委員会
 - 5月30日(火) 学校課題研究に係わる講話
 - 6月26日(月) 第6学年算数科授業研究会《単位量あたりの大きさ》
 - 7月 6日(木) 第1学年算数科授業研究会《のこりはいくつ ちがいはいくつ》
 - 7月24日(月) 研究推進委員会、全体会「研究の全体構想」
 - 8月21日(月) 学力調査等報告会(人間地区国語科・算数科学力調査、教育に関する3つの達成目標効果の検証、標準学力検査)
 - 8月22日(火) 国語科示範授業及び「3つの達成目標」研修、体育実技伝達研修、3部会
 - 8月30日(水) 道徳示範授業
 - 9月14日(木) 体育科示範授業及び「体育科の学習」「体力テスト」研修
 - 10月12日(木) 第3学年算数科授業研究会《あまりのあるわり算》
 - 10月20日(金) 第2学年算数科授業研究会《かけ算(2)九九をつくろう》
 - 11月10日(金) 研究推進委員会「実践報告書の構成検討」
 - 11月15日(水) 第4学年算数科授業研究会《分けた大きさの表し方を考えよう》
 - 12月11日(月) 3部会、研究推進委員会「各部報告」「実践報告書作成の手順確認」
 - 12月22日(金) 3つの達成目標 冬休み振り返りカード配布、1月9日(月)回収・集計
 - 1月19日(金) 講話「算数科の指導法改善の今日的課題」講師:大学教授
 - 1月25日(木) 第5学年算数科授業研究会《円をくわしく調べよう》
 - 3月 9日(金) 実践報告書完成、全体会「本年度のまとめ」「平成19年度研修の方向性」
-

(2) 3部会の研究内容

| 算数指導法部 | 実態調査・環境部 | 規律ある態度・体力部 |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 算数の指導法検討 効果的な少人数指導の検討 自己指導能力を育てる学習指導過程の検討 学力向上カルテの検証 入間地区算数科学力調査、標準学力検査の分析 | <ul style="list-style-type: none"> 学習コーナーの充実 <ul style="list-style-type: none"> ①指導過程 ②算数学習コーナー ③廊下算数コーナー ④ノート指導 教材の整備 実態調査 | <ul style="list-style-type: none"> 規律に関するアンケートの実施と考察(2回) 体力テストの実施と考察(2回) |

3 実践事例

(1) 平成18年10月20日(金) 第2学年算数科授業研究会《かけ算(2)九九をつくろう》

TT指導

●3つの達成目標[計算]小学校2年生● かけ算九九ができるようにしましょう。

これが
身につくと

▽かけ算九九を構成し、かけ算の意味の理解を深めます。かけ算九九は、2年生以降の計算の基礎的な技能として、欠くことのできない内容です。3年生で学習する2けたのかけ算やわり算の学習につながり、日常生活の様々な場面で用いられます。

① 本時の目標

○既習の九九の構成方法を用いて、 6×7 の計算のしかたを
考えることができる。

② おもな評価規準(数学的な考え方)

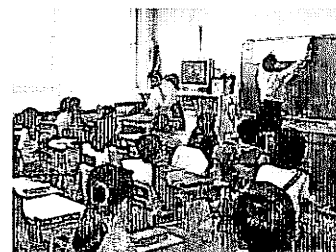
○乗法について成り立つ性質を用いて答えの出し方を考えて
いる。

③ 指導のポイント

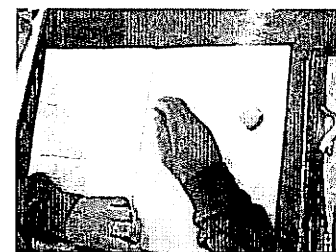
ア 九九の被乗数と乗数を入れ換えても積は同じになることを活用したり、被乗数と乗数を分解することで既習の九九から未習の九九が構成できることに気づいたり、新たな段を構成しようとする意欲を高める。

イ 既習の考え方や見いだしたきまりがいつでも活用できるよう算数コーナーに掲示して、今までの考え方をういれば構成できるという見通しを持たせる。

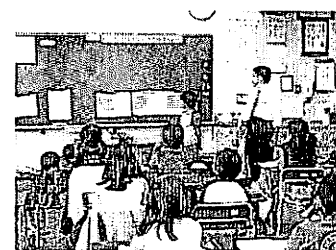
ウ 教師が二人いるTTのよさを生かし、個々の解決方法に対応できるようにし、児童一人一人にできる喜びを味わわせる。



チーム・ティーチングによる授業



計算の仕方を考える



自分の考えを説明する



●3つの達成目標〔計算〕小学校5年生● 三角形や円の面積を求めることができるようにしましょう。

これが
身につくと

▼公式を導くことで、数値を当てはめるだけで答えを求めることができ、公式で表すことのよさがわかります。6年生の体積の学習につながります。



○各コースの学習

| | 基礎・基本(ホップ)コース | 定着(ステップ)コース | 発展(ジャンプ)コース |
|---------|---|------------------------------------|---------------------------------|
| 学習の仕方 | 既習事項を復習し、教師とともに基礎基本の問題にじっくり取り組む。 | 教科書に沿って学習、スモールステップで確実な理解を図り定着を目指す。 | 他者の考えを参考に多くの問題を自力解決し発展問題に取り組む。 |
| 本時の目標 | 円の面積を求める公式を理解することができる。 | 円の面積を既習の図形を利用して求めることができる。 | 円の面積を求める公式の理解を深めることができる。 |
| おもな評価規準 | 等積変形の考え方を使って円の面積の求め方を考えることができる。 | 既習の図形を利用して、円の面積を求めることを考え、説明できる。 | 既習の図形に変形して、円の面積を求める公式を導き、説明できる。 |
| 指導のポイント | ア 既習事項を使って等積変形しながら円の面積の求め方を考え、公式へと導く。 イ 具体物の操作や友だちとの活動を通して楽しく学習できるように、視覚に訴えながら指導に取り組む。 | | |

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- 昨年度に引き続き、本年度も全学年で算数の研究授業を行い、授業の質と精度が向上した。
- 少人数指導、あるいはTTにより、個に応じたきめ細かな指導を行うことができた。
- 課題解決的な学習活動を展開することで、児童一人一人の思考力や表現力、コミュニケーション能力が高まりを見せた。



(2) 課題

- 「書く力」の育成、体力の向上
- 規律ある態度、道徳的実践力の継続的な育成
- 学習支援ボランティアの活用



◎平成19年度に向け、南古谷小の子どもたち一人一人に[生きる力]を育む教育を、「教育に関する3つの達成目標」の総合的な実践を通して、さらに推進する。

「豊かな学びを育む授業の創造」

－ 指導方法の工夫・改善を目指して－

川越市立霞ヶ関北小学校

研究のポイント

- 基礎・基本の確実な定着を図り、学び方を学び、学んだことを生かして課題解決できる児童の育成。
- 授業における児童相互の関わり合いを通じたコミュニケーション能力の育成。
- 指導と評価の一体化による個に応じた学習指導の展開。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

本校は、移転開校5年目を迎え、オープンスペース等、特色ある施設・設備を生かした教育活動を積極的に推進してきている。昨年度までの2年間は、研究主題を「学びのよさを味わえる子どもの育成」とし、学んだことを生かし発展させていく児童や、学習を通して自己の成長を自覚できる児童の育成を目指して研究を進めてきた。その結果、国語科・算数科における習熟の程度や興味・関心別等のコースによる少人数指導の充実や児童の自己評価能力の向上などの成果が見られた。

そこで、今年度は、この2年間の研究を踏まえ、昨年までの研究をさらに継続発展させるために、研究主題を「豊かな学びを育む授業の創造」とした。本研究では、授業における児童相互の関わり合いを通して、学んだことを活かすことができる子、教え合い高め合うことができる子、自分の成長を評価できる子を育成することをねらいとした。

(2) 研究主題設定理由

本校の児童は、標準学力検査、人間学力調査、教育に関する3つの達成目標検証結果において各項目で平均を上回るなど基礎学力が定着してきている。また、授業での活動の様子を見ると、既習事項を活かして自力解決する力も伸びてきている。本年度は、児童が相互の関わり合いの中で、活発に教え合ったり学び合ったりすることを通して学べる力を伸ばすとともに、児童の生きる力の醸成を図っていきたいと考え、本研究主題を設定した。

本校では、「豊かな学び」を

○基礎・基本の確実な定着をもとに、既習事項を解決の手段にしたり、学んだことを発展的に活用したりすること。

○学んだことをもとに、児童相互の関わりの中で、教え合ったり、学び合ったり、課題を解決したりすることができること

ととらえている。

本年度は、コミュニケーション能力を育成していくことから取り組むこととし、授業の中で、言葉を使って心を通わせたり、理解し合ったり、課題を解決したりする経験を重ねていった。そして、指導法の工夫や改善を進め、「豊かな学び」を育む授業づくりを目指している。

(2) 専門部の取組

① 授業研究部

ア 課題解決能力育成に向けての工夫

指導案形式について検討を行い、共通理解を図った。形式については、「研究主題との関連」の欄を設け、その中に仮説検証に向けての手立てや具体的方法を書くようにした。また、基礎・基本を明確にし、その定着を図るための指導形態の工夫が見られるような形にした。

イ コミュニケーション能力育成に向けての工夫

各学年において、コミュニケーション能力育成に関する目指す児童像を設定し、その育成に向けての工夫（学級経営、教科領域、国語科・算数科の学習）を明確にした「国語科・算数科経営グランドデザイン」を作成した。

ウ 自己評価能力育成に向けての工夫

評価カードを活用したり、授業の終末段階でノートに感想を記入したりするなど毎時間ごと又は小單元ごとに、自己評価・相互評価の機会を設定した。また、教師は、児童一人一人のよさや課題を的確に把握し、補助簿を活用することによって毎時間の評価を累積していった。

② 資料調査部

ア アンケートによる実態把握

児童一人一人の実態を把握し、個に応じた適切な指導を行うために、国語科・算数科における情意面（2教科についての印象、コース別学習についての印象）のアンケートを行った。アンケートは、2回実施（6月、12月）し、児童の変容を検証した。

イ 標準学力テスト、入間地区学力調査、3つの達成目標検証結果の分析

各学年とも、平均を上回っている領域が多い。平均を下回っている領域については、指導の手立ての検討を行った。

③ 環境整備部

ア 国語コーナーの設置

国語に関する興味・関心を高めるとともに、学んだことを楽しみながら確認できる「国語コーナー」を設置した。発達段階に応じ、クイズ形式にしたり、視覚的に親しみやすくしたりして、計画的に内容の更新を行った。

イ 校内LANの活用

コンピュータハードディスク内にフォルダを作成し、各学年で作成した自作テストや授業で使用したワークシート等を、継続的に保存し、活用を図るようにした。

3 実践事例（第6学年 国語科「読書の世界を広めよう」）

(1) 指導計画

- | | |
|---|---------|
| ①単元のねらいをつかむ。 | ・・・ 1時間 |
| ②「森へ」を読み、筆者の気持ちに変容した理由を読みとる。 | ・・・ 3時間 |
| ③読書発表会に向け、互いに交流し合い、グループで紹介する本や紹介の仕方を決め、発表の準備や練習をする。 | ・・・ 5時間 |
| ④読書発表会を開き、紹介し合った本を読む。 | ・・・ 2時間 |

(2) 仮説検証に向けての取組

①課題解決能力の育成

「森へ」を読みとっていく際には、児童の一読後の感想をもとに課題を設定し、読みの視点をはっきりさせて読みとらせていった。また、選んだ本を読み情報カードを書いていく際には、読むことの習熟度の低い児童を中心に、読みの視点を与えたり、書き方の一例を示したりするなど具体的な支援を行った。

②コミュニケーション能力の育成

紹介する本や紹介の仕方を決めたり、発表会の準備をや練習を行う際に、グループで関わり合って学んだり、教え合ったりする場面を意図的に設定した。また、話し合いを行う際には、教師がモデル原稿を用意し模範を示したり、進め方の手引きを活用したりすることにより、児童に明確なイメージをもたせるようにした。

③自己評価能力の育成

毎時間、評価規準を分かりやすい言葉で児童に提示することにより、見通しをもって学習活動に取り組めるようにしていった。また、授業の終末段階に自分の学びを振り返る時間を設定し、成果と課題を明らかにするとともに、次時の学習への意欲につなげるようにした。

4 研究の成果と課題 (成果○ 課題●)

【課題解決能力の育成】

- 問題解決型の授業において、教師側で予想される反応を画用紙に書いたものを用意したことにより、児童の自力解決の時間を確保するとともに個別指導も充実させることができた。
- 学年掲示板を利用し、既習事項を履歴として掲示していったことにより、児童は前時に学習した方法を意識しながら、新しい課題に取り組むことができた。
- 習熟の程度に応じたコースによる少人数指導における、コースごとの「学習の手引き」の作成が必要である。

【コミュニケーション能力の育成】

- 話し合いをする際に、教師がモデル原稿を用意し模範を示したことにより、児童が明確なイメージをもって学習活動に取り組み、相互交流をすることができた。
- 授業の終末段階に感想を書き、友達同士で見せ合う交流の時間をもった。発表できなかった友達のいろいろな考え方や感想にふれることができ、有効であった。
- 発達段階に応じたコミュニケーション能力育成に関する目指す児童像をより明確にする。

【自己評価能力の育成】

- 毎時間の自己評価を積み重ねていったことにより、目標に関わるような感想が書けるようになった。また、教師はそれをもとに、児童一人一人のよさや課題を的確に把握し、個に応じた指導を行うことができた。
- 相互評価を行い、「友達のがんばっていたところ」などを記述させたことにより、児童の活動がより意欲的になった。また、グループ活動で教師が把握できない部分を補うことができた。
- 誰が評価してもある程度同じ結果が得られる「客観性・妥当性」の高い具体的な評価規準の検討をさらに進める。

「実践的コミュニケーション能力育成のための基礎・基本の定着」

川越市立川越第一中学校

研究のポイント

- 生徒の実践的なコミュニケーション能力を育成するための基礎・基本を定着させる事を目指した授業の展開
- 日々の授業実践、アンケート等の中から生徒の実態を把握し、より効果的な実践の研究
- 3年間で身に付けさせたい力を明確にし、各学年で系統的に学習できるような計画の立案

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

- ① 実践的コミュニケーション能力を育成するための基礎・基本とはどのようなものであるかを明らかにしていく。
- ② 仮説・検証を通して、基礎・基本を生徒一人一人に定着させるためにはどのような方法が有効であるかを考え、実践していく。

(2) 研究主題設定理由

① 社会的背景

学習指導要領—外国語編—の目標として「聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」ことが明示されている。しかし、音声ばかりを重視し、それに偏った指導では実践的コミュニケーション能力を育成していくことは難しいのではないかと考え、文法の知識や、語彙力等が実践的コミュニケーション能力を高めていくためには基盤となっていると考え、四技能をバランスよく有機的に関連させて指導していくことが必要である。

② 本校の教育目標

「自主、練磨、敬愛」

言語の習得には、自ら自分の気持ちや考えなどを相手に伝えたいという態度を育てていくことが大切である。また、言語の習得段階では互いに切磋琢磨しながら、お互いを思いやり、協力して楽しく学習できる雰囲気を作っていくことも重要である。実践コミュニケーション能力を育成していく過程は、本校の教育目標の達成に寄与するものであると考えた。

③ 生徒の実態

本校の生徒は明るく、行事等さまざまな活動に積極的に取り組む事ができる生徒が非常に多い。授業に対する取り組みも、意欲的である。しかし、学年が上がるに従って学力に差が出て来ているのも事実である。

こうした現状を踏まえ、個に応じた指導を充実し、すべての生徒に基礎・基本を定着させ、実践的コミュニケーション能力の育成を図っていきたい。

生徒の実態調査

(平成18年12月実施)

質問1 授業の内容がわかりますか

| | よくわかる | だいたいわかる | どちらともいえない | すこしわからない | ほとんどわからない |
|-----|-------|---------|-----------|----------|-----------|
| 1年生 | 48.1% | 30.5% | 14.3% | 5.7% | 1.4% |
| 2年生 | 38.0% | 34.4% | 15.6% | 8.3% | 3.6% |
| 3年生 | 45.3% | 33.3% | 12.4% | 6.0% | 3.0% |

質問2 授業が楽しいですか

| | とても楽しい | 少し楽しい | どちらともいえない | 少し楽しくない | 楽しくない |
|-----|--------|-------|-----------|---------|-------|
| 1年生 | 52.9% | 29.0% | 12.4% | 3.8% | 1.9% |
| 2年生 | 24.7% | 34.0% | 24.2% | 9.8% | 7.2% |
| 3年生 | 45.8% | 36.8% | 13.4% | 1.0% | 3.0% |

質問3 授業に積極的に取り組んでいますか

| | 積極的である | だいたい取り組んでいる | どちらともいえない | あまり積極的でない | 取り組んでいない |
|-----|--------|-------------|-----------|-----------|----------|
| 1年生 | 49.5% | 26.0% | 17.5% | 6.0% | 1.0% |
| 2年生 | 34.4% | 37.5% | 18.8% | 7.8% | 1.6% |
| 3年生 | 40.0% | 47.0% | 9.5% | 3.0% | 0.5% |

2 研究の内容

(1) 研究仮説

語彙力や文法的な知識などの基礎的・基本的技能の定着を図り、理解力と表現力の一体化を目指す活動をベースに活動への意欲を高める手立てを工夫しながら実践的コミュニケーション活動を計画的に展開し、適切な評価を行うことで実践的コミュニケーション能力育成のための基礎・基本の定着を図ることができるであろう。

(2) 本年度の研究経過

| | |
|-----|--|
| 1学期 | 5月10日(水) 研究方針の検討開始 英語科 5月25日(木) 研究に関する打ち合わせ 校長、英語科 6月12日(月) 第1回研究協議 英語科 研究構想の立案開始 6月28日(水) 第1回授業研究会 8月28日(月) 第2回研究協議 授業実践例の整理 研究仮説について |
| 2学期 | 9月13日(水) 第3回研究協議 授業実践例の集約 研究仮説の検討 10月中旬 英語学習に関する生徒の意識調査実施 10月26日(木) 第2回授業研究会 (総合訪問研究授業) |

| | |
|-----|---|
| | 11月7日(火) 市教研発表 12月7日(木) 第3回授業研究会 |
| 3学期 | 1月22日(月) 第4回研究協議 3学期の計画について、研究の中間まとめ 2月 検証授業 3月 第5回研究協議 研究のまとめ、次年度の研究について |

3 実践例

(1) 理解力と表現力の一体化を目指す言語活動の工夫

語彙、発音、文型などが一体となり、コミュニケーション能力の基礎・基本を定着させる言語活動の工夫

① 授業の導入時(ウォームアップ)

ア 英語の歌

イ 英語によるQ-A

ウ まるごとインプット

復習として日本語に対応する英語を1分で覚え、ペアで言い合う活動

エ おしゃべりインプット

場面を設定し、会話の一部分を自分で考え、英語を暗記し4人と会話する活動

オ リスニングテスト

少しまとまった英文や、短い会話文を聞き、マルチプルチョイスやT-Fで答える活動

② 新文型の導入

ア ピクチャーを使つての導入

イ ショートスキットを使つての導入

ウ クイズ形式のゲーム的要素を取り入れた導入

③ 文型定着のためのプラクティス

ア 会話活動(ビンゴゲーム、仲間探しゲーム、インフォメーションギャップ)

イ ピクチャーを使つてのプラクティス

ウ 英文の意味を考えるプラクティス

エ ライティング(自己表現、絵の内容を英語で表現する活動)

オ ロールプレイ

カ AETによるマンツーマンQ-A

既習の文を駆使したり、習ったばかりの文法事項を使つて

④ 本文の内容理解に関する活動

ア ピクチャーカードを使つてのQ-A

CDで英文を聞かせ、口頭によるT-Fテストに答える

イ ビデオを見てのQ-A

事前に質問をワークシートに書いておき、ビデオを3回見て質問に答える

ウ 教科書の音読

(コーラス、スピードリーディング、ペアリーディング、日本語を見ながらの暗唱など)

(コーラス、スピードリーディング、ペアリーディング、日本語を見ながらの暗唱など)

(2) 活動への意欲を高める実践的コミュニケーション活動の創造

さまざまな場面において、自分の意見や考え、情報などを互いに伝えたり、受け取ったりできる能力を養う工夫

① メッセージを中心にして発話意図と言語表現が一体化したコミュニケーション活動

ア 情報伝達ゲーム

短い英語での会話文や日本語のまとまった情報から、相手に何を伝えるべきかを英語で考え、伝える活動。

イ 自己紹介発表会

年に2回程度、その時々習った文法事項を指定し、それを使いながらテーマに沿って文章を作り発表する。

(テーマ例)「like と play を使って」「過去形を使って私の冬休み」「want to を使って自分の夢」「比較級を使って身の回りにある物」「現在完了を使って自分が行ったことのある場所の紹介」

ウ スピーチ活動

あるトピックを生徒に与え、それについて自分のことを話したり、簡単な質問に答えたりする。

② Task 遂行をベースとしたコミュニケーション活動

ア レポート作成 (なりきり日記、ストーリーメイク)

宿題として定期的実施する。

イ Writing Journal

Writing Journal のためのプリントを用意し、何でもいから英文を書かせる。毎回の授業で提出させ、返事を書いて返すシステム。

(3) 言語活動、コミュニケーション活動に対する評価の工夫

ア スペリングコンテストの実施

イ スピーキングテストの実施

ウ 自己評価カードの活用

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・それぞれの教員が現在の指導方法を持ち寄り、研究協議を重ねていったことによって指導方法の工夫・改善を図ることができた。
- ・授業を実践していく中で、基礎・基本定着のための手立てを意識し、授業を行うようになった。
- ・さまざまな活動を工夫していくことで、生徒の学習に対する意識が向上してきたことが実態調査から伺うことができた。

(2) 課題

- ・英語科として、目指す生徒像を明らかにし、その目標に近づくための3年間を見通した指導計画を作成していく。
- ・今年度の研究では指導していきたい項目が絞りきれなかったという反省を踏まえ、より重点的に指導していきたい項目を絞り込み、指導方法を工夫、改善していきたい。(語彙習得、音読指導)